

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790200095		
法人名	医療法人社団 純心会		
事業所名	グループホーム 椿		
所在地	香川県丸亀市金倉町537番地2		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町受理日	初受審

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790200095&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3790200095&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成23年10月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『馴染みのある町で共に歩み、利用者にとっての「もう一つの我が家」「もう一つの家族」を目指し、陽だまりのような心温まるケアを提供させていただきます。』を理念とし、職員一同、利用者の笑顔を引き出すことに努めている。また、何より健康で過ごせるように、協力病院との連携を充実させている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

開設1年を迎えようとしている当事業所は、事業所名の由来ともなった椿の大木を中心に、季節の花々や実のなる木等、豊かな自然環境に恵まれた立地条件にある。自治会長の働きかけもあり、地域の春・秋の祭りや催しにも積極的に参加・交流している。自治会の集まりの場所提供も行っている。また、利用者は、訪れる人を自ら温かく出迎え・見送りするだけでなく、お茶等のおもてなしも行っている。さらに利用者は、職員に日々の生活場面で気軽に質問する等、親しみのある信頼関係を築いている。管理者・職員が一丸となって、心温まるケアを行うという理念のもと、利用者の今後の個別支援実施に向けた計画に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが意見を出し、話し合いにより全員で決めた理念を掲示し、それをを念頭において日々のケアを行っている。	開設にあたって全職員の意思統一と意識高揚を図るため、職員一人ひとりのアイデア、思いを、まとめた形の理念となっている。一つひとつの言葉に意味があるが、やや長文になっている。	1年間の経験・実績を踏まえ、職員の意識を再度集約し、誰もが覚えやすくケアの拠りどころとなるよう端的な理念を目指し、検討することが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流会に参加させていただいたり、ホームを自治会の集まりの場所として提供している。	自治会加入はしていないが、自治会の集会に、事業所を場所提供しており、集会時に、利用者が気軽に挨拶するなど、おもてなしを担っている。また、自治会長の声かけで、管理者が地域の川掃除に参加したり、利用者職員が地区新春交流会や地区小学校での地域ふれあい秋祭りに参加している。また、天気の良い日に出かける散歩の行き帰りに出会う方々と、気軽に挨拶を交している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学や相談に応じるようにし、その際には認知症ケア等についてアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況報告や日々の活動、課題等について報告をし、委員から率直な意見をいただいている。そして、意見や要望は、全職員が共有して、サービスの質の向上に活かしている。	自治会長、近所の方、市職員等、外部からの参加が得られている。特に、多くの利用者、家族の意見を大切にしており、毎回順番に参加していただいている。意見が出された場合は、運営推進会議後に、すみやかに対応し、サービスの質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の方には、運営推進会議やグループホーム連絡会等を通じて、日頃より適切な運営などについて相談に応じていただいている。	認知症ケア加算の書類を持参し相談した際に、対象利用者の同意書作成の助言を得られた。また、管理者は、市が主催するグループホーム連絡会に毎回参加する中で、当事業所のケアプラン作成の事例発表を行う等、積極的な関係づくりがうかがえる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為はもちろん、それ以外にも精神的な拘束を行わないように、マニュアルの作成や身体拘束委員会での話し合い、研修への参加等により取り組んでいる。	マニュアルを作成し、事務所内の見えやすく、取り出しやすい位置に、他のマニュアルと共にファイルして設置している。また、管理者が外部研修で得た知識・技術については、すみやかに内部研修や実際のケアを通じて、全職員に伝達し、周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、職員一同、高齢者虐待防止について取り組んでいる。また、理解を深めていくために、定期的な内部研修を予定している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等についての理解を深めていくために、研修等への参加や勉強会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時等には、家族や本人の不安が軽減するようにパンフレットや重要事項説明書などを用いて、十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情受付担当者や外部苦情申立機関について明記している。また、出された苦情については、苦情解決委員会で話し合い、解決に努めている。	利用者や家族からの細かな意見や問い合わせなどを記録に残し、毎月行われる苦情解決委員会で、解決に向けた対応を行っている。結果は、運営推進会議や個別に報告し、了解をいただくようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り時などに、職員の意見を聞き、運営に活かすようにしている。また、職員からも率直に意見を言い出しやすい関係づくりに努めている。	利用者からのこたつ利用の要望に、湯を入れたペットボトルで対応する意見や、腰痛のある利用者に円座や背もたれクッションを、利用者と共に手作りする意見等、当事業所は、管理者と職員の位置関係が近く、職員は意見を出しやすくなっている。意見は、すみやかに検討・実践し運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力等を評価し表彰したり、昇給や昇進等でやりがいにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の内部研修を、計画的に実施している。職員がそれぞれ講師を務めることで、スキルアップにもつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会となるよう外部研修への参加を勧めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、なるべく本人にもホームを見学していただくなど、面談の機会を設け、本人の意向や要望等を聴くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談、利用申込みの時に、家族の困っていることやホームに対する要望などをうかがい、しっかりとコミュニケーションを図ることで、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族にとって、最も適した支援が受けられるよう、必要に応じて他のサービス利用を勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者の年配者としての知恵を借りながら、調理や掃除、洗濯などの家事を共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と積極的にコミュニケーションを図り、情報交換を行うことで、課題発生時などに共に考え話し合える関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に家族等に訪問していただけるように面会時間は決めていない。また、希望に沿った個別の外出援助等を計画している。	県外遠距離の家族に配慮し、7時から21時までの玄関開錠時間外にも玄関チャイムで対応し、面会自由に行っている。また、利用者の友人を、家族が同行して来たり、面会に訪れる知人等、利用者の馴染みの関係を大切に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味、生活歴等を把握したうえで、利用者同士の良い関係づくりができるように、職員が潤滑油として間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退居後も相談に応じるなどの援助を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が個別に利用者やゆっくり関わる時間を持ち、何を望まれているか等を把握するよう努めている。	夕方の洗濯物たたみや、個別の入浴支援時を利用したり、夜間の演歌番組のテレビ視聴時等、ゆったりした時間帯に、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中で、本人から情報を得たり、家族からも生活歴や趣味などについて、折に触れ話をうかがうように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、食事摂取量、排泄、睡眠の状態や、本人の言動等を記録し、一人ひとりの状態が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や、カンファレンス等での職員間の意見交換や、日頃からの本人や家族の要望等を反映した介護計画を作成している。	利用者本人、家族、協力病院医師や看護師の意見や情報の収集を行い、全職員で話し合った結果を反映して、管理者が介護計画を作成している。また、介護計画の見直しのため、モニタリングは、毎月、全職員で行っている。	担当職員が、主体的に、担当利用者の介護計画作成を行い、全職員が作成された介護計画を共有し、日々のケア実践に活かすことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、利用者の言われたそのままの言葉や、それに対する職員の気づきや対応などを記入し、情報を共有することで、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のみならず、家族の状況にも配慮し、必要な支援があれば、できるがぎり柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りやクリスマス会等の際に、歌や踊りのボランティアの方々を招き、利用者楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談しながら、協力病院だけでなく、専門医等、希望される医療機関への受診も支援している。	家族の方の同行・協力を得て、かかりつけ医受診を実施する等、必要に応じた支援をしている。ほとんどの家族は、協力病院による往診時に医師に質問する形で、症状や治療方針を把握し、また面会時等で、家族に報告することにより、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師は、利用者一人ひとりの状態をよく把握しており、いつでも相談できる関係づくりができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合は、早期退院に向けて病院関係者と連携を図り、必要な支援を共に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に将来の方向性を、家族等からうかがうようにしている。また、その後も、状態の変化に応じて、主治医や家族と繰り返し話し合い、本人にとって最善のケアが受けられるように支援している。	現在ターミナルケアは行っていない。経営母体が医療機関のため、「治療を優先したい。」との旨を説明し、家族もそれを求め合意している。	当事業所で最期の看取りを希望する利用者にも対応できるよう、ターミナルケアへの取り組みは、今後の継続課題とすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成するとともに、勉強会等により、職員全員が緊急時の対処法を、身に付けられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にも参加していただき、防災訓練を行うなど、災害時に向けての協力体制を整えている。	春に火災、秋には水害と、それぞれ夜勤体制を想定して訓練している。夜勤者が、利用者を背負い消防車に乗せたり、毛布担架を作り搬送する等を行った。地元住民の方5、6人と地元消防団、防災担当者の参加協力を得て実施し、地域住民から好評を得ている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、自尊心を傷つけないような対応を常に心がけている。また、個人情報の取り扱いについては、利用開始時に意向調査を行い、それに基づいて細心の注意を払って対応している。	入居時に個人情報保護に関するアンケート9項目を行った結果を、事務所内の電話の横に貼り対応している。また、ホーム便りの写真は、個人情報保護の観点からプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の伝達が困難な利用者にも、ゆっくりとその方に合わせた説明を行い、自己決定していただく場面を増やすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れにとらわれず、利用者の意思を尊重し、その時々希望を優先するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに関心が持てるように、着替えの際に本人に服を選んでいただいたり、希望の方には、お化粧品やマニキュアなども援助している。また、パーマや毛染め等の希望には、個別に美容室へお連れして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持っている力に合わせて下ごしらえや盛り付け、配膳などをお願いしている。また、職員も一緒にテーブルを囲み、楽しい雰囲気でするように支援している。	野菜の皮むきやテーブル拭き、ランチョンマットの準備や片づけなど、利用者の希望や得意分野に配慮した役割分担をお願いしている。また、BGMの流れる中、職員は利用者と共に食卓を囲み、栗等季節の食材や庭で収穫した柿をデザートに、和気あいの食事時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状態や好みなどに配慮し、必要に応じて食事形態や献立を変更し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。できるところは本人に行っていただき、見守りや確認、磨き直し等の援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録で排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行うことにより、失禁を防いでいる。また、徐々にオムツ→リハビリパンツ→布パンツへの移行を目指し、取り組んでいる。	利用者の状態に合わせて、おむつ使用からトレーニングパンツ、そして尿取りパット、さらに布パンツと排泄の自立に向けた支援を行っている。また、トイレ前のじゅうたんの色を決めてあり、排泄の自立支援の工夫がうかがえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多く含まれた食事の提供や適度な運動の援助など、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調の変化などに応じて、できるかぎり柔軟に対応している。また、浴槽への出入りが困難な場合でも、本人の希望によっては、二人介助等にて対応している。	行事のある時は、午前中に実施としているが、原則として一日おきに14時から16時の時間内で、利用者の希望に合わせて、個別の入浴支援を行っている。また、現在のところ、夜間時入浴の希望はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の利用者には、お茶や軽い食べ物を摂っていただいたり、話し相手をすることにより、安心して眠れるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師との情報交換をまめに行い、医薬の理解に努めている。また、利用者それぞれの服薬一覧表をファイルにまとめ、一目で使用している薬が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や手芸、生け花等の趣味の活動、また、洗濯や調理等の家事活動を援助し、気分転換や役割づくりを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近所のお地藏様へのお参りが日課となっている。また、利用者へのアンケートの実施等により、希望の把握に努め、外出援助につなげている。	天気の良い日に、近くの地藏様まで散歩に出かけたり、地区の公園に出かけて、池の鯉の餌やりをして楽しんだり、公園内のベンチに腰かけて、持参したコーヒーを楽しんだりしている。	近くの大型スーパーでの買い物など、利用者の希望に沿った外出支援に向けて、今後も継続して、実施方法の検討が望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の方には、少額のお金を本人に持っていただくようにし、買い物等の機会をつつていくように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、家族に電話をかけたり、手紙を書くなどの援助を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光を活かした明るいリビングから、中庭の花や果実のなる木を眺められ、季節を身近に感じられるようになっている。	リビングは、花壇の花や当事業所名の由来にもなった椿の大木のある庭が、利用者の目を楽しませている。テーブルには季節の花が飾られ、掲示板には法人、事業所の理念やホーム便りを掲示している。また、利用者が作成した仏画が存在感を持って飾られたりと、居心地よい空間が工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳スペースがあり、利用者それぞれが好きな場所で過ごせるようになっている。		

グループホーム 椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いなれている家具や布団を使用している。また、ベッドも一人ひとりに合わせて配置している。	居室には、夫の遺影や仏壇、家族の写真、使い慣れたソファなど、利用者の好みの物がそれぞれ持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者がわかりやすいように、トイレ前はじゅうたんの色を変えたり、利用者に合わせて、居室のドアや電灯のスイッチなどに目印を付けている。また、各居室から段差なく庭へ出られるようになっており、万が一の災害時にも安心である。		